

〔今昔物語 二十六〕美作國神依獵師謀止生贄語第七

今昔美作國中參高野ト申ス神在マス其神ノ體ハ中參ハ猿高野ハ蛇ニテゾ在マシケル毎年ニ一度其祭ケルニ生贄ヲゾ備ケル略中男長櫃ヲ塵許艦開テ見レバ長七八尺許アル猿横座ニ有リ略中前ニ俎ニ大ナル刀置タリ酢鹽酒鹽ナド皆居エタリ人ノ鹿ナドヲ下シテ食ンズル様也

觀硯在俗時值盜人語第十八

今昔兒共摩行シ觀硯聖人ト云者有キ略中庵ノ前ニ郎等共居並テ俎五六許並テ様々ノ魚鳥ヲ造リ極ク經營ス

〔吾妻鏡 三〕壽永三年六月十六日癸酉山村太郎小者擬戰遠景野天遠景相隔一箇間取魚板打之山村

顛倒于緣下之間遠景郎從獲其首云云

〔源平盛衰記 四十五〕女院御徒然附大臣賴朝問答事

大臣宗盛平盛ノ刎首事不容易トテ俎上ニ大ナル魚ヲ置利刀ヲ相具シテ内大臣父子宗盛及清宗ノ前ニ被置タリ自害シ給ヘトノ謀也

〔近世畸人傳 四〕堅田祐庵

所がら湖中の鯉鮒の類を調するに魚板數枚を用ゆはじめ鱗をはなつより肉を切にいたるまで次を追て板を轉ずかくせざればうつり香ありてなまぐさしといへり

〔置土産 一〕四十九日の堪忍

傾城の男珍らしがる事よもや世間に知るまじ又臺所を見渡せば柳俎取廻はして略下

〔好色一代男 二〕うら屋も住所

宿に似合ぬ大俎板つぶれかゝりてもかな色あり